備前市事務事業評価シート

（平成22年度事業）

事業の概要

事業開始年度			平成17年度～	根拠法令・例規等	地方自治法
総合計画	大項目	基本目標	06 健全で自立したまちづくり	問合先 担当課（室）	出納室
	中項目	基本施策	01 簡素で効率的な行財政運営	職・氏名	出納係長　眞野なぎさ
	小項目	施策	17 その他事務管理（出納）	電話	0869－64－1801
事務事業名			02 一時借入事務事業	このシート作成に要した時間	1.5 時間

Plan

事業の目的

対象（誰・何に対して）	備前市
目的（何のために）	備前市の歳出における資金繰りのため
事業の意図する成果（どのような状態にしたいのか）	歳計現金の不足を一時的に補い、円滑な資金繰りに努める。

Do

事業の実績

目的を達成するため実施した事業

細事業名	事業の説明	優先度
一時借入金	資金繰りのために、金融機関等から一時的に資金を借り入れる	◎

事業費等		単位	平成20年度実績	平成21年度実績	平成22年度実績
決算額 事業費	直接事業費	千円	563	438	1,479
	必要人員 人件費		0.00人 0	0.00人 0	0.00人 0
	事業費計		563	438	1,479
財源	国県支出金	千円			
	受益者負担				
	繰入金				
	市債				
	その他（　）				
	一般財源		563	438	1,479
受益者負担比率		%	－	－	－

結果指標名		単位	平成20年度実績	平成21年度実績	平成22年度実績
結果指標		説明	1年間の一時借入金額		
	結果指標量	事業	1,000,000	1,000,000	2,000,000
	対前年比	%	－	100.0%	200.0%
	活動コスト	円			
	単位当たりコスト		0	0	0

事業の意図する成果とつながる成果指標を設定

事業の目的、対象、内容を考えながら妥当性を評価

事業費や受益者負担比率、単位当たりコストに留意しながら効率性を評価

事業の目的やその数値目標である成果指標に留意しながら有効性を評価

事業の成果

成果指標名	年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度目標値
一時借入金利子支払額	目標値（A）	0	0	0	0
	実績値（B）	563	438	1479	到達目標値
	達成率（B/A）	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	

成果指標設定の考え方・式や説明

目標値・到達年度ともに設定できない。
市の歳計現金の適切な運用を行う業務であるため、歳計現金の状況を把握しながら、必要に応じて一時借入を実施しなければならない。

Check

事務事業の評価

5段階評価（A～E）のランク基準　A：高い　B：やや高い　C：普通　D：やや低い　E：低い

妥当性の評価

市の関与の妥当性・必要性

- ☑ 市が実施するよう法令で義務づけられている
- ☐ 法令で義務づけられてないが、実施しなければ大半の市民の日常生活に支障をきたす
- ☐ 現在市が実施しているが、実施しなくても市民の日常生活に支障をきたさない
- ☐ 事業の内容が一部の受益者に偏っている
- ☐ 対象者は限定的であるが社会的弱者等を対象としている
- ☐ 現在の市を取り巻く環境からも目的・意図する成果は妥当である
- ☐ 事業開始当初の目的から変化してきている
- ☐ 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている
- ☐ 厳しい財政状況であるが、実施する必要がある

市民ニーズ

- ☐ 市民・団体等から要望・要請が強い

妥当性評価 <A～E>: **A**

効率性の評価

コスト手段

- ☐ 単位当たりコストは前年度と比較して改善している
- ☐ 実施方法（派遣・委託含）を見直すことでコストを下げる余地がある
- ☐ 事務の電子化や事務改善によりコストを下げる余地がある
- ☑ コスト削減の努力はしているが、下がる余地は小さい
- ☐ 受益者負担率は適正である
- ☐ 受益者負担率を見直す余地がある
- ☐ サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない
- ☐ 現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある
- ☐ 最適な手段を求めて職場内で改善・研修に努めている

効率性評価 <A～E>: **C**

有効性の評価

目的達成度

- ☐ 成果指標の設定は適切である
- ☐ 成果指標の到達目標値は達成できそうである
- ☐ 成果指標達成率は前年度と比較して向上している
- ☐ 成果指標達成率は80%未満となっている
- ☐ 現在の事業を継続しても成果指標の向上は期待できない

市民参画度

- ☐ 法定事務 ・ 内部管理事務　であり成果は求めにくい
- ☐ 事業について積極的にHPや広報等で情報提供している
- ☐ 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している

有効性評価 <A～E>: **C**

進行年度（H23年度）の改革改善内容

状況	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
		○					

説明：今後は各部署に、適切な予算執行管理に努めるよう指導し、歳計現金の状況を把握しながら、必要に応じて一時借入を実施していく。

総合評価

5段階評価（A～E）のランク基準　A：高い　B：やや高い　C：普通　D：やや低い　E：低い

市の歳計現金の適切な運用を行う業務であるため、歳計現金の状況を把握しながら、今後も継続して実施する必要がある。
大規模事業などの支出により、一時借入が必要となったため、利子が増加してしているが、適切な借り入れであった。

評価区分 <A～E>: **B**

Action

平成24年度の方向性・取組目標

方向性	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
		○					

取組目標：各部署に、収支予定表の正確に提出してもらい、適切な予算執行管理に努めるよう指導し、歳計現金の状況を把握しながら、借入時期などを考慮し、必要な時期に適切に一時借入を実施していく。